

90年比25%削減を明言

温室ガスで
民主・鳩山氏
国連会合で公表へ

民主党の鳩山由紀夫代表は7日、都内で開かれた「朝日地球環境フォーラム2009」でスピーチし、日本の温室効果ガス削減の2020年の中期目標として、同党が従来主張してきた「90年比で25%削減」を掲げることとを明言した。新政権発足後、22日にニューヨークで開催される国連気候変動首脳級会合で、世界に公表する方針。

府に、初めて自らリーダーシップを発揮できる首相が誕生するだろう」と歓迎の意を表した。

しかし一方で、企業団体などからは以前より産業活動の鈍化や国民への負担増大を懸念する意見が噴出しており、今後ますます波紋を呼びそうだ。

鳩山代表は、「政治の意思として、あらゆる政策を総動員して実現を目指す」としながらも、「すべての主要国の参加による意欲的な目標の合意が、我が国の国際社会への約束の『前提』だ」と述べるなど、主要排出国の出方次第で日本の目標が変動することも取れる曖昧さも残る。

また、麻生太郎首相が掲げた「05年比15%削減」は森林吸収や排出権取引を含まない「真水」での目標数値であるのに対し、鳩山氏が掲げる目標値が「真水」かどうか明らかになっていない。「真水」の削減幅によって産業活動への影響や国民の負担が大きく変動する可能性もある。国全体の理解を得るためには、目標達成に向け、より具体的に明確な道筋を示すことが求められよう。

これに対して、樋口隆昌WWFジャパン事務局長は「鳩山代表の勇気を歓迎する。今まで、産業界の後ろ向きな声に大きく影響されて、野心的な態度に欠けていた日本政

平成21年9月9日
環境新聞